

21 おおだけ 大岳 (1585m) ~ 22 こだけ 小岳 (1478m) 地域 北八甲田

2008年12月20日~21日

[ルート] 酸ヶ湯⇄仙人岱ヒュッテ⇄大岳 仙人岱ヒュッテ⇄小岳

[参加者名] (泊) CL Y.HANADA 他4名
(日帰り) CLT, TSUSHIMA 他4名

[コースタイム] 12/20 7:30 横内P集合→8:00 酸ヶ湯P→8:30 登山口→
10:35 仙人岱小屋 11:05 発→12:40 大岳山頂→13:55 仙人岱小屋(泊)
12/21 6:00起床 7:45 小屋発→8:35 小岳山頂→9:05 小屋 9:40 発→
10:55 酸ヶ湯登山口

[登山口までのアプローチ、登山口の様子]103号線酸ヶ湯より入山。

[山行記録]

20日、朝5時には天頂の北斗七星が鮮やかに輝いているが天気予報では終日、雨(21日雪・雨)とのこと。横内Pに集合し、車三台に分乗し出発。雲谷峠では気温7℃風速9mとの表示あり、萱野高原までは乾いていた車道がその上では凍結状態で慎重に走行する。酸ヶ湯Pにてカンジキ、スノーシューを装着し登山開始。(H.N 氏のみスキー) 笹、灌木が見られ樹皮の薄桃色が美しいダケカンパ林・標識番号17辺りのアオモリドマツ大木につけられた布テープは頭上5m辺りと云うところ。9:30 地獄湯沢に下りすぐに硫黄岳スキールートを示す 標識45を横に見る。中程から風が強まってきたので防風装備する。仙人岱湿原入り口に近い渡橋を超えた辺りでリーダーは磁方針135°に合わせ樹氷林の中を通り小屋に到着。日帰り組はしっかりと行動食・休憩をとり、硫黄岳経由で下山。泊り組は泊り用具等を小屋に置きザック調整し大岳へ出発。強風に吹き飛ぶ雪で視界が徐々に狭くなる中、北方向にほぼ夏道に沿って進み南斜面に取り付く。西方向上部にアオモリドマツ帯の中を抜けると急峻なハイマツ帯に入るとその先に崩れ止めの蛇籠が見え、それに取り付く。下方にかすかに鏡沼辺りの看板標識が見える。風は更にいっそう強くなり、背を低め顔を打つ雪を避けながら注意深く北西にまわりこみ山頂平坦部に着く。強風視界不良、ただちに下山開始。風を避けるためにやや西方向にそれて林部に下り、13:00簡単な昼食をとり、更に下り微かな硫黄臭をかき、地獄湯沢上部の橋に出て小屋に着く。他の泊り者は一人でわがグループの貸し切り状態。夜食作り談笑し17:30就寝する。風は収まりつつある。

21日、前夜来の降雪20~30cm。6:00起床、朝食は煮込み素うどん。曇天ながら無風の穏やかな雪原を北方向に進み分岐辺りで磁針を東へとり、樹林帯を吹き溜りを避けながら上り、8:25森林限界を出、ハイマツ帯をゆっくり歩き、マー・ライオン風の見事な樹氷が一本立つ小岳頂上に到着。高田大岳もその雄姿を顕している。外した手袋がガチガチに固くなるほどの寒さが強くなり写真を撮りただちに下山。三人娘(?)は踏み跡道があれば男は不用とばかりの勢いでサッサッと振り向くことなくその早いこと。小屋でザック再パックし出発。10:15地獄湯沢を過ぎ、酸ヶ湯Pに着く。

報告 M.KIKUCHI



2008年3月2日

[ルート] 酸ヶ湯温泉→硫黄岳→仙人岱→酸ヶ湯温泉

[参加者名] CL M.KIMURA 他6名

[コースタイム] 横内P 7:40→酸ヶ湯温泉 8:20→登山口 8:35→硫黄登山ルート① 9:45→硫黄岳 10:45→仙人岱ヒュッテ 11:15 休憩、出発 11:20→硫黄岳登山口 11:50→酸ヶ湯 12:30 昼食→横内P 14:00

[登山口までのアプローチ、登山口の様子]

横内駐車場から国道 103 号へ雲谷峠を越え、萱の茶屋に至り、酸ヶ湯駐車場に入る。登山口は道路との段差があり、ツボ足で登り、上でカンジキをつける。

[山行記録]

予定より40分早く駐車場に着き、準備する。山スキーグループがさきにてたので、私達は程よい汗を流しながら歩く。時々立ち止まり春を待つ静かな世界に浸る。ダケカンバのやさしい色あい。吹きつける雪を受け、氷ったように立つブナの厳しさ。重い雪をはりつけ天を目指すトマツの雄々しさ。時には鳥のさえずりも聞こえ、辺りを見回す。硫黄岳登山入口の木に“硫黄岳登山ルート①”の丸い標識を見つけた。「登りが奇数、下りが偶数です」と聞き、確認しながら登って行く。視界は良くないが、樹氷を見ながら童話の世界に8人は突き進んで行く。健脚組はラッセルに挑戦する。時

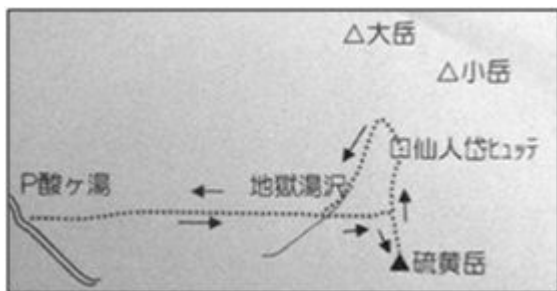


には硫黄岳が見えるが、風もあり、天気は良くない。M.KさんとM.Kさんが話し合い、山頂を目指すことに。M.Kさんを先頭に注意を聞きながら、ますます勢い良く登り始める。山頂では、時々雲が切れるが、写真を撮る程でもなく、下山することになる。M.Kさんを中心に地図と磁石で仙人岱ヒュッテの方向を調べて、かすかに見える方向に向かって出発する。途中、M.Kさんが下を指差し『これがシュカブラと言うんだよ』と教えてくれた。何度か聞き直しメモをした。風が強く、風紋が一面に描かれていた。帰

宅して広辞苑を引いたら「強風のため、雪面に出来たクラスト。波状雪」と書いてあった。30分でヒュッテに到着。入口付近には、スキー21組とスノシュー3組が無造作にあり、中から『いっぱいですよ』と男性が顔を出した。小屋横風のあたらない場所で休憩を取り、まだ11時20分なので酸ヶ湯まで下山

して昼食を取る事にする。地獄

湯沢付近では小さな雪庇もあり、周りに注意しながら歩くようにM.Kさんから言われる。酸ヶ湯には12時30分に到着。温泉に通じているというトンネルを子供のようにワクワクしながら、頭をぶつけないように進むと、出口は酸ヶ湯温泉、二階のトイレ入口であった。初めての硫黄岳登山で緊張感もあり、楽しい一日でした。



報告 M.TSUJIMURA